

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 日作成)

WG 名	建築一体化空調 WG	主 査 名：石野 久彌
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築設備小委員会(環境工学本委員会)	委員長名：石野 久彌
設 置 期 間	2003 年 10 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	建築の熱性能を空調システムと一体化させる種々のタイプの空調システムの性能と特性を明らかにし、設計指針を提案する。 (2003、2004 年度)各種の建築一体化空調の実施例、実測例、シミュレーション法などを収集整理し、設計法の要点や問題点を明らかにする。	
委員構成 (委員名(所属))	石野久彌(東京都立大) 羽山広文(北海道大) 郡公子(宇都宮大) 猪岡達夫(中部大) 宇田川光弘(工学院大) 川瀬貴晴(千葉大) 近藤靖史(武蔵工業大) 下正純(竹中工務店) 長井達夫(大阪市立大) 丹羽勝巳(日建設計) 丸山純(松田平田設計) 柳井崇(日本設計) 柳宇(国立保険医療科学院) 吉牟田圭一(日比谷総合設備) 龍有二(北九州市立大)	
設置 SWG (SWG 名:目的)		
2004 年度予算	80,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	第 1 回 6 月 14 日・12 名、第 2 回 9 月 1 日・7 名 第 3 回 10 月 25 日・9 名、第 4 回 12 月 20 日・8 名 第 5 回 2 月 22 日・8 名
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>1)建築一体化空調システムの事例研究 ウォールスルーエアコン、自然換気併用ハイブリッド空調、照明・ブラインド協調制御+ビルマルチシステムなどの研究事例について討議した。建築一体化空調を組み込み総合的に高性能な建築を実現した事例 3 件の視察を行い、設計法・運転法、環境・エネルギー性能を確認した。</p> <p>2)建築一体化空調システムのシミュレーション法・設計法・評価法の研究 シミュレーションモデル EESLISM の特徴、空調ゾーニングの必要性を決定するためのオフィス室温分布評価法、CASBEE-既存によるエネルギー評価法、設計のための窓性能値、新しい空調設計用気象データの考え方について討議を行った。</p> <p>3)「建築一体化空調」出版物の内容計画 みる(設計例)、使う(設計手順)、学ぶ(理論的根拠)の 3 つの構成をもつ出版物を目指すことを決め、内容を検討した。</p> <p>委員会 HP アドレス：http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s10/</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>当初の計画通り、建築一体化空調に関して、実施事例、研究事例研究により、設計上工夫されている点を収集し、また設計法や評価法の研究から得られた知見やデータ、建築一体化空調の評価に適するシミュレーションモデルを確認することができた。また、WG の活動成果を出版物としてまとめる方向を決め、出版物の特徴を明確にすることができた。目標の達成度は 90%である。</p>
その他評価すべき事項	WG での建築一体化空調に関する議事録、審議資料をホームページに掲載し公開した。これにより、建築実務者や研究者、学生が建築一体化空調を知るための有益な情報源を提供できた。